

コウノトリ湿地ネットニュースレター

パタパタ

vol.

42

最終号

豊岡市城崎町今津1362
0796-20-8560
toshima8560@iris.eonet.ne.jp
<http://wac-s.net>



歩んできたパタパタ（全41）

- 1__ 長らくのご支援、ご協力ありがとうございました
- 3__ 元文化庁文化財調査官・品田穰さんに聞く
- 5__ 全国のコウノトリの飛来状況
- 7__ コウノトリが播く種に希望を込めて
- 8__ 戸島湿地だより

長らくのご支援、ご協力ありがとうございました。
さらに活動の場を広げ、野生復帰に邁進していきます。

コウノリ湿地ネット 代表 佐竹 節夫



去る2月22日、私たちコウノリ湿地ネットは総会を開き、12年と6か月の活動に一区切りつけて、この3月末をもって方向に一定の整理をすることとしました。近年、コウノリの飛来が急速に全国に広がり、繁殖地もできつつあることから、主な活動が豊岡市内限定版であったので、全国的な活動ができる会にしていこうというものです。既に全国組織である日本コウノリの会が2016年に発足しており、実質的にはこの全国組織で活動展開がなされていました。そこで、二重構造を整理して対外的には日本コウノリの会一本にして活動していきます。

コウノリ湿地ネットが発足したのは、2007年の秋。その2年前の2005年9月に行われた最初の放鳥時には、「餌生物がないのでは」との不安が漂っていました。しかし、特段餓死する個体も出ませんでした。しかも、2007年7月には野外(百合地)で初めてヒナが孵化、巣立ちして、世間では当初の不安が少しずつ安堵に変わりつつあった時期でした。

しかし、一部の市民はそのような楽観視には立てず、餌生物の不足を真剣に危惧していました。生きものと共生する農業に取り組まれている農家に期待するだけでなく、市民として餌生物が復活する取り組みを行いたい。そのために、市民による湿地づくりを進めよう、とコウノリファンが集ったのが「コウノリ湿地ネット」でした。整備計画が進んでいた豊岡市立ハチゴロウの戸島湿地の管理運営もこの市民団体がやっていきたいとの思いもありました。

最初は事務所もなく、学習会等は戸島地区の会館を使わせてもらっていましたが、やがて造成中の戸島湿地の指定管理者の公募があったので、即応募しました。

結果、2009年1月から指定管理者となり、湿地ネットの事務所にも活用でき、日常的な活動が展開できるようになりました。

活動の柱は、次の4本でした。

1. 日常的に野外のコウノリを観察し、その目撃情報を発信・共有して、HPで公開する。
2. 指定管理者を受託したハチゴロウの戸島湿地をしっかりと管理・運営する。
3. コウノリの直接の餌場になる各種のビオトープを造成・維持管理し、また、他のビオトープづくりを支援する。
4. 様々な機会をとらえてコウノリ野生復帰への普及啓発を行い、環境教育を進める。

ラッキーだったのは、戸島湿地の造成工事前からコウノリがやってきて、湿地内の人工巣塔でペアを形成し、工事期間中にもかかわらず産卵、孵化、巣立ちを一気にやってのけてくれたことです。コウノリにそれらしき様相があったので、簡易な池をつくって餌(アジ)を置き、誘導を試みていたことが功を奏したようでした。以来、このペアは、昨年までで12年連続繁殖(今年度もその様相あり)して、我々の主張・活動を側面援護してくれています。感謝です。

2009年頃には早くも幼鳥たちが全国を飛び回るようになり、放鳥も養父市(2013年～)、朝来市(2013年～)、越前市(2015年～)、野田市(2015年～)で、次々と放鳥が実施されました。野外繁殖も京丹後市(2012年～)、鳴門市(2017年～)、雲南市(2017年～)、養父市(2018年～)、そして2019年の鳥取市、坂井市と増えていっています。喜ばしい増え方ですが、一方では市民活動が皆無であったがために、突如の飛来によって現地の行政や住民に戸惑いを生じさせている状況となっています。全国組織のち密な活動が求められています。

また、宮古島で1羽が長期滞在していること、これまでに韓国に6羽(2月末現在、4羽が滞在中)が渡っていることも特筆すべきことです。前者は、我々本土の自然・文化環境の範疇ではとらえられないものがあること、後者は、さらに国を超えて広く東アジアの視点でとらえる必要があることを突き付けられていると思います。

これからも次々と新たな課題・難題を提起してくるだろうコウノトリに対して、私たち市民にできることは市民の手でやる。そのためにしっかり対応可能な体制づくりを進める。ぜひ、多くの皆様と一緒にやっていきたいと思えます。

賛助会員の皆様、本誌の読者の皆さま、長らくご支援、ご協力いただき、誠にありがとうございました。今後は、日本コウノトリの会として発展させてまいりますので、活動に対し変わらぬ愛情を賜りますようお願いいたします。

※ハチゴロウの戸島湿地は、コウノトリ湿地ネットが豊岡市から指定管理者業務を受託していますが、その期間は2022年度までとなっています。そのため、それまでの間、「コウノトリ湿地ネット」は指定管理者業務を遂行する会を設けることとしました。会員は現在指定管理業務を行っている数名限定版です。対外的には混乱されるかもしれませんが、ご理解いただきますよう、お願いします。



天然記念物の保護は郷土愛が要^{かなめ} —元文化庁主任文化財調査官・品田穰さんに聞く—

パタパタ編集部



昭和40年2月、国と兵庫県は絶滅の危機に瀕したコウノトリを救うため、最後の手段として人工飼育に踏み切ったが、当時の経緯をよくご存じの方がおられる。当時、文化庁で天然記念物を担当した品田穰氏(88)だ。氏は、コウノトリの保護に強い意欲を持たれていた山階鳥類研究所理事長の山階芳麿博士と一緒に豊岡市を訪れ、飼育施設の候補地を見て回ったそうだ。昨年末、東京でお会いし、話を伺うことができたので、当会の佐竹代表との対談内容を以下にまとめてみた。



元文化庁主任文化財調査官・品田穰さん

◇山階博士との豊岡行き

〈山階博士が当時の阪本勝・兵庫県知事にコウノトリ保護を求めたのがきっかけで、コウノトリ飼育場の建設に先立つ1963年(昭和38年)、品田氏は山階博士と一緒に豊岡市を訪問し、施設の候補地を見て回られた〉

(佐竹)1955年(昭和30年)、山階博士が阪本知事に保護を要請されたが、普通の知事なら「はい、わかりました」で終わりでしょう。しかし、阪本知事は「わが兵庫にコウノトリという大切な鳥がいるのを知らなかった」と恥じ、以来、熱心に取り組まれた記録が残っている。

(品田)阪本さんは本当に熱心にやったよね。我々は新幹線がなく、夜行で行った。豊岡市役所に行き、友田(英弥)さんという職員と相談した。山階先生は、「ここで飼育をしないとダメだから進めましょう」という言い方だった。僕だったら説得できなかったけど、山階先生だから(県も市も)『分かりました』と。有無をいわず決まっちゃった。その後で、すぐに友田さんらと候補地を何か所か見て回ったんだ。

◇文化財と郷土愛

〈文化財保護法の前身として、史蹟名勝天然記念物保存法が1919年(大正8年)に制定されるが、コウノトリは1921年(大正10年)に「鶴山鶴蕃殖地」として天然記念物に地域指定されている。品田氏は、「わずか2年後に指定されたのは、地元の熱意があったからだ。コウノトリ単体を守るのではなく、コウノトリがいる郷土を誇りに思う『郷土愛』が大切だ」と指摘される〉

(品田)1911年(明治44年)に貴族院議員の徳川頼倫らが日本の誇りを残さなきゃいかんと建議書を作った。それに基づいて史蹟名勝天然記念物保存法ができた。来年で100年となる。

(佐竹)日露戦争の時には、出石鶴山でのコウノトリの繁殖を、地元の役場が戦地に写真を贈り、コウノトリが繁殖したように日本は勝利すると。

(品田)ナショナリズムと結びついちゃった点はある。その頃、郷土というとナショナリズムでしょう。戦争と結びつくのはまずかったかも知れないけど。日本の自然保護は郷土愛と結びついてた。日本のあちこちに保勝会ができた。

(佐竹)豊岡の玄武洞保勝会も大正の初めに設立しています。

(品田)そう。保勝会が結構活動してね。あちこちの自然を守ったんですよ。

(佐竹)今は過疎化で若者らが都会に流出してしまうけど、郷土愛を現代風にリニューアルして、うまく生かせば定着化に役立つのでは。

◇地域指定の意味

(品田)出石鶴山という地域を天然記念物に指定し、戦後、いなくなってからは地域を定めない天然記念物になった。だからと言って、「種」の指定ではないんだ。「地域を定めない天然記念物」に変わったただけだ。

(佐竹)種の指定に変わったと思っていました。

(品田)みんなそう思っただけでも、そうではない。トキは大陸と交流はないので、日本産は絶滅したといえるけど、コウノトリは時々渡ってくるから厳密にいうと絶滅したとまではいえない。豊岡とか福井とかで繁殖した個体は絶滅したとはいえるけど。

(佐竹)平成の始めにコウノトリ保護増殖の仕事を始めた時、日本で留鳥でいた個体とロシアからもらった個体がいた。最初に孵化したのがロシアからもらった個体からだったので、外国の鳥じゃないかとの声があった。留鳥の方は(福井県の)武生から来たんですが、当時、文化庁もこの鳥を日本最後の留鳥にしたらしいという話だった。

(品田)絶滅したという方が刺激的でしょう。それはそれでいいと思う。あとは前提を付けて、「この辺の地域個体群は絶滅した」と。

◇今後の野生復帰

(佐竹)野外で急速に増え、日本全国や韓国にまで飛んでいっています。各地では、突然に飛来してくるので準備ができてなく、歓迎されずに混乱が生じるケースが出ています。

国が司令塔になり、法律やガイドラインをつくる必要があるのでは。その場合、環境省が主になるのか、国土交通省も含めた総合的にするとか。

(品田)生きものの保護ってのは、省庁とか縦割りとか関係ないんだよね。結局、天然記念物は郷土だから、郷土のみんなが力を合わせなきゃだめってことよ。自治体の首長がやろうといわないと。では、自治体の長にやろうといわせるのは誰か。やっぱりマスコミになると思うよ。国が乗り出して郷土の保護を図ろうなんて、それはよくないことだよ。

(佐竹)せめてガイドラインとか。生物多様性国家戦略ってありますよね。コウノトリ復活国家戦略とか考えられないでしょうか。

(品田)そんな風なものもできたとしてもさあ。実際にコウノトリがいる地域がやらなきゃ。NPOがやらないと。

(佐竹)それもあって、全国版の「日本コウノトリの会」ができたんですけど、残念ながらまだ力がない。

(品田)力がないんじゃなくて、力を付けなきゃ。

「鶴山鶴蕃殖地」が天然記念物になってから来年で100年。品田氏は、鶴山の指定は地元の行政・住民が大切にされてきた、「郷土愛」に基づく文化財の良い例だったと高く評価された。そして、今日のコウノトリ野生復帰でも、「郷土愛の感じられる取り組みに」と期待されている。



菜の花（なのはな）

いつもの年なら3月~4月頃に河川敷や田んぼに鮮やかな黄色い花を咲かせるが、今シーズンは暖冬の影響か相当に早く花が咲いている。

菜の花は、アブラナ科アブラナ属の花の総称で、ナタネ、カブ、ハクサイ、キャベツ、カラシナなどが含まれる。一面に広がる菜の花は壮観で、代表的な春の風物詩である。主産地の広大菜の花畑は観光資源ともなっている。

一般的にみられる菜の花は、明治以降栽培が拡大した「セイヨウアブラナ」が主体と見られる。

(絵・文 池上晃)

全国のコウノトリの飛来状況 ～ コウノトリ市民科学より ～

コウノトリ湿地ネット、日本コウノトリの会 会員 永瀬偉大

コウノトリ市民科学が2018年7月に公開され、1年半以上が経過した。2020年2月19日現在で情報を送って下さる方々は300名を超え、登録情報は14,550件以上になった。

① そこで、コウノトリ市民科学のデータから、どこで観察されたのかを地図上に表示した(図1)。表示個体は、足環が確認できなかったコウノトリを含む、登録された全ての個体が対象。

次に、コウノトリ達がどういった環境に飛来しているのかを「目撃された各飛来環境÷目撃された総飛来環境」で各環境の飛来割合を割り出した(表1)。飛来環境の年平均値は、水田42.2%、畑2.2%、湿地11.3%、草地2.1%、河川6.1%、干潟0.7%、水路1.4%、農道12.8%、山0.3%、道路8.0%、市街地(住宅地)2.5%、池沼10.3%だった。

図1と表1から、山での目撃情報が少なく、平野部での目撃が多い事が分かる。コウノトリのエサ場が山間部にあまりなく、山地での観察が難しいため、この結果になったと思われる。特に日本アルプスについては、ここより西側と東側に飛来が別れているように見える。これは、東日本由来(千葉県野田市放鳥)の個体は、関東平野を中心に観察されており、西日本由来(野田市以外の放鳥個体及び、野外繁殖個体)の個体は、アルプス山脈以西各地を中心に確認されているためである。特にアルプス山脈西側では、山脈を避けるように、日本海側と太平洋側へ飛来地が分かれているように見える。これは西日本由来のコウノトリ達が、標高の高い山が連なる日本アルプスを避けている



コウノトリ飛来地の割合

表1

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
水田	46.0%	39.5%	36.1%	35.3%	44.2%	47.7%	41.5%	34.6%	50.5%	51.6%	36.8%	42.5%	42.2%
畑	2.5%	3.1%	1.8%	0.4%	5.6%	1.1%	0.5%	1.2%	4.2%	2.7%	2.6%	1.2%	2.2%
湿地	10.0%	11.4%	10.2%	17.3%	13.6%	12.3%	18.8%	9.2%	6.7%	8.7%	10.4%	8.4%	11.3%
草地	1.5%	1.6%	2.8%	1.3%	3.3%	3.4%	2.4%	1.4%	2.3%	1.2%	3.3%	1.4%	2.1%
河川	5.6%	5.6%	2.1%	0.7%	0.7%	3.7%	7.5%	13.8%	7.2%	6.7%	11.4%	7.8%	6.1%
干潟	0.3%	0.7%	1.5%	2.2%	1.3%	0.2%	0.2%	0.6%	1.3%	0.0%	0.0%	1.1%	0.7%
水路	3.2%	2.8%	2.1%	1.1%	0.2%	0.2%	0.2%	1.0%	0.0%	1.4%	1.3%	2.1%	1.4%
農道	13.7%	15.2%	23.4%	22.9%	16.4%	10.5%	12.3%	17.1%	6.3%	6.0%	4.2%	5.3%	12.8%
山	0.0%	0.9%	1.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.3%	0.3%
道路	7.3%	12.2%	8.7%	9.0%	4.9%	8.4%	11.0%	15.1%	6.9%	6.8%	3.8%	2.7%	8.0%
市街地	1.8%	2.3%	1.7%	4.7%	4.0%	3.2%	3.5%	2.2%	0.0%	0.2%	3.7%	3.5%	2.5%
池沼	8.2%	4.7%	8.6%	4.9%	5.6%	9.2%	2.1%	3.7%	14.3%	14.5%	22.5%	23.6%	10.3%

からではないかと考えられる。これは、標高の高い山を越えるのには体力が必要となり、エサ場となる水辺は低地に多いと本能で感じ取るからではないかと思うが、実際は目撃情報が登録されていないだけという可能性もある。北海道、青森県では、西日本由来の個体が目撃されている。今後、全国での目撃情報が増え、西日本と東日本との移動ルートが判明できればと思う。

② 図1の飛来地図から、2018年生まれ(34羽)と2019年生まれ(53羽)の飛来地を抜き出し、表示した(図2及び図3)。

2つの図を見比べると、2018年生まれのほうが全国的な広がりがあるように見られる。2019年生まれでも遠方で観察された個体がいるが、亜成鳥に比べると広がりはまだ小さい。期間に差はあるが、亜成鳥になる事でより全国へ飛翔するのだと推測できる。今後、ペア形成や定着、幼鳥～成長の移動傾向を明らかに出来ると思われる。

他には、全体的なコウノリの動きと似たように、東日本のコウノリ達は関東平野を中心に観察され、西日本のコウノリ達はアルプス山脈より西側を中心に観察されている。特に2019年生まれの4羽(福井県坂井市3羽、鳥取県気高町1羽)については、海を渡って韓国まで移動した。うち福井県生まれの3羽は今も韓国に滞在していると思われる。

今後は、西日本の個体と東日本の個体がどのように生息域が合わさっていくのか。また韓国、中国、ロシアといった東アジアのコウノリとどのように交流が生まれてくるのか。これまで以上に、広い連携が必要となってくるだろう。

③ 採餌環境について

目撃された各採餌場所が、全体の何パーセントに当たるのかを「目撃された各採餌環境÷目撃された採餌環境総数」で割り出した(表2)。各採餌環境の年平均は、水田67.1%、畑3.3%、湿地5.4%、草地1.8%、河川6.4%、干潟1.7%、水路2.6%、農道1.5%、山0.0%、道路0.5%、市街地(住宅地)0.2%、池沼9.6%だった。月別では、水田は毎月43%以上であり、改めてではあるが、コウノリの主な採餌場所になっている事が分かる。4月～7月の時期には、70%以上は水田で採餌していることが読み取れる。

他に水準が高い場所としては、池沼が挙げられる。月別で見ると11月、12月には20%以上となっている。これは兵庫県南部の播磨地域や香川県の中讃地域にて、ため池での採餌の目撃情報が多く登録されたからである。ただ7月、8月には2%を下回るなど、月によってムラがある。池沼に関しては、池の水抜き(かいぼり)の時期が限定されるため、年中を通した安定的なエサ場とはとらえにくいかもしれないが、月

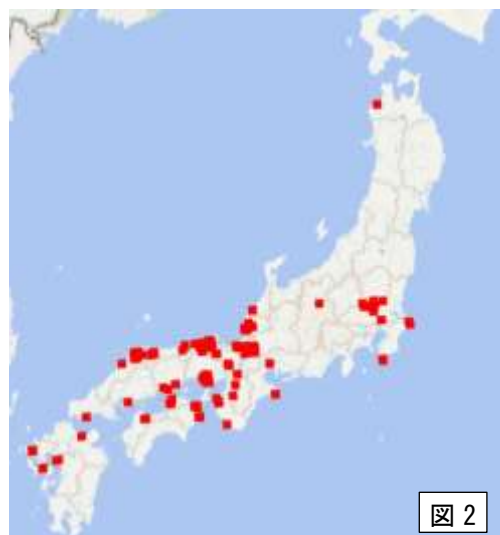


図2
2018年生まれの
飛来地点地図



図3
2019年生まれの
飛来地点地図

の20%以上も採餌が確認されるという事は、重要なエサ場であると言えるだろう。

今後、コウノトリ市民科学の情報が増えることによって、様々な事が分かってくると思われる。これからの市民科学拡大に期待が寄せられる。

各月の採餌場所利用率

表2

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
水田	63.0%	67.2%	65.4%	78.9%	71.0%	83.5%	80.9%	69.5%	67.4%	63.9%	43.4%	50.5%	67.1%
畑	3.4%	2.8%	1.9%	0.0%	9.7%	1.3%	0.5%	1.8%	7.0%	5.6%	3.4%	2.3%	3.3%
湿地	7.5%	7.3%	5.2%	3.7%	1.4%	0.6%	2.7%	4.8%	3.1%	6.3%	14.7%	8.0%	5.4%
草地	1.5%	0.6%	0.9%	0.0%	2.1%	1.3%	1.6%	3.6%	2.7%	1.4%	3.8%	1.7%	1.8%
河川	6.8%	8.5%	6.6%	1.8%	0.7%	3.8%	9.0%	10.2%	6.2%	3.1%	10.6%	9.7%	6.4%
干潟	0.8%	1.7%	1.9%	6.4%	4.1%	0.6%	0.5%	1.2%	1.6%	0.0%	0.0%	1.3%	1.7%
水路	4.2%	6.8%	6.2%	2.8%	0.7%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	1.7%	2.6%	4.0%	2.6%
農道	3.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%	1.3%	3.2%	5.4%	0.8%	1.7%	0.4%	1.0%	1.5%
山	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
道路	0.0%	1.7%	0.5%	0.9%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.3%	0.5%
市街地	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.2%
池沼	9.8%	3.4%	10.4%	3.7%	9.7%	5.7%	1.6%	1.8%	10.9%	16.3%	20.8%	21.1%	9.6%

“利用したコウノトリ目撃データは、「コウノトリ市民科学」より提供されたものである”

コウノトリ市民科学 <https://stork.diasjp.net/>



コウノトリが播く種に希望を込めて

西垣由佳子



昨年春からハチゴロウの戸島湿地のスタッフとしてお世話になっています。

子供の付き添いで自然観察会などに参加しているうちに野鳥が大好きになり、必然的にコウノトリにも興味を持つようになりました。とはいうものの、豊岡ではコウノトリは田んぼに行けば見られる鳥。正直に言いますと、特に珍しくもなく「今日もおるなあ・・・。」と感じる程度のものでした。

ところが、戸島湿地で色々と仕事をしているうちに、全国にはコウノトリに並々ならぬ想いを持たれている方が多い事に驚かされました。沢山の皆さんの想いを知るうちに「コウノトリの何がそんなに人を惹きつけるのだろう？」という疑問が湧いてきました。そして、同時に私自身も身近なコウノトリを観察するようになりました。

最も忘れられないのはJ0016の姿です。J0016は越前市でかわいがられていた『えっちゃん』のことで、彼女(あえて彼女と呼させていただきます)と出会ったのは街中の大型薬局の横の田んぼでした。人通りを気にする様子もなく、オタマジャクシを一心不乱に食べていました。そしてその後、何度も街中の小さな田んぼで見かけるようになりました。なぜ、J0016は自分の巣塔のある田んぼの周りで採餌せず、川を越えてわざわざ住宅街の中の狭い田んぼに通っているのだろう？観察しているうちに色々な想像が頭をよぎりました。巣塔近くに住む姑との緊張関係、常にある縄張り争いのストレス、食欲旺盛なヒ

ナのための採餌……。他のコウノトリに邪魔されない採餌場所は、たとえ住宅街であってもJ0016にとってのオアシスだったのかもしれませんが。J0016の観察はいつしか応援に変わり、全国で見守られている皆さんのコウノトリへの想いが少し分かった気がしました。コウノトリは大型鳥類だけに観察もしやすく、足環がついているがゆえに個体識別も容易にできます。思い込みを避け、冷静に鳥の行動を見ようと思いつつも、つい、目の前の姿に人間的な想像を働かせてしまうのです。今思えば、母であり嫁である私自身をJ0016に投影していたのかもしれませんが。

その後、J0016は帰らぬ鳥となったわけですが、それ以来、コウノトリを見る目は以前とは違うものとなりました。これまで、美しい野鳥やレアな渡り鳥に心踊らせることは多々ありましたが、コウノトリを見て、そこまでときめくことはありませんでした。しかし、実際に見始めるとコウノトリは個々が抱える背景がわかりやすく、それを取り巻く人間関係ならぬ鳥関係が浮かび上がってきます。コウノトリにはきれいな事ではすまされないドラマがあり、それが鳥本来の魅力と相まって一層面白く感じられるようになりました。

今後コウノトリはますます全国に広がっていくと思われまます。飛来した先々で歓迎してもらえとも限りません。しかし、飛来したコウノトリをきっかけにしてその地域の皆さんが感動を共有したり、つながったり、また子ども達が環境のことを考えてくれたらこんなにうれしい事はありません。コウノトリが各地の皆さんの心に小さな種を播いてくれることを願っています。



在りし日の J0016



ハチゴロウの戸島湿地だより
= 総集編 =
ハチゴロウの戸島湿地管理人 森薫



戸島湿地で勤務して11年目となる。

私は城崎温泉で育ち、実家が飲食業を営んでいたのもペットを飼うこともないまま大人になった。両親は休日もなく家業に勤しんでいたため、幼少の頃から自然との触れ合いは少なかった。小さな庭でままごと遊び〜「きょうの料理ごっこ」を得意として遊んでいた。『温泉まつり』で売られていた着色されたヒヨコがとても怖く悲しかった。母は未だに「ヒヨコが怖かったのに、コウノトリのところで働いている」と笑う。自分でも不思議だ。生きもの調査で弱る生きものを見るのも辛く馴染めない。人生の折り返し地点に、城崎大橋を渡って戸島湿地へたどり着いたのは、幼稚園のときに野上の保護増殖センターへ遠足に行ったとき、白い点にしか見えなかった鳥が、我が子が中学生と時には大空を舞っていたこと、放鳥のときにボランティアで観察されていた方が「コウノトリが右を向いても左を向いても嬉しかった」と話されたことに感動したことから始まったような気がする。



生きものへの知識もなく、未熟な私が務めてこられたのは、佐竹代表をはじめスタッフ、ボランティア

作業に来てくださった方、コウノリを通じての出会いに支えていただけたからだと思う。本当に感謝している。パタパタがどうしても書けない時があり、迷惑をかけたことも多く反省している。しんどいこともあるけれど、戸島湿地には感動がいっぱいだ。たくさんのかたちを書いておきたいが、コウノリの子育ての様子が、雨にも濡れず、強風にも耐えることなく観察できる戸島人工巣塔から巣立ちをした 25 羽の様子をまとめて、皆様への感謝としたい。

♡ 戸島人工巣塔から巣立った 22 羽の子供たちの物語 ♡

2008 年

J0007 (未標識) 7月6日巣立ち。ネットランチャーによる足環付けの捕獲から逃れ、未標識のまま自由に大空を飛び回っていた。尾羽に黒い羽が混じていたのが特徴で、自己主張しているようで頼もしく感じた。2009年1月8日に島根県斐川町で、交通事故により亡くなったとみられている。(筋肉もしっかりつき、胃の中にはたくさんの種類の生きものがあつたそうです) 自然豊かな斐川町を見つけたたくさんの餌を食べていた。

J0008 ♂ 7月3日巣立ち。同じ日に野上人工巣塔で巣立ったJ0010と京丹後市久美浜町永留巣塔で繁殖し2012年～2013年で8羽のヒナが巣立った。2013年5月23日に久美浜町でネットに足を絡まし死亡した。ハチベエとして愛され親しまれ、毎年お盆には供養されている。「森さん、わしゃ、悲しゅうて、悲しゅうて」泣き顔など想像できない方の『男泣き』の音が今も耳に残っている。

J0009 ♀ 7月2日巣立ち。愛媛県西予市では「キューちゃん」上郡町では「幸ちゃん」と呼ばれ、特別住民票をいただいた。2018年からは豊岡市日高町の広井人工巣塔で J0006 とメスメスペアとなっている (J0006 とは異母姉妹)。「メスメスペアは托卵し遺伝子の多様性を保つ」と報道がなされたため、地域の方は大いに期待され托卵によるヒナの巣立ちを望んでおられる。

2009 年

J0013 ♂ 6月9日巣立ち。ハチゴロウの戸島湿地がオープンして初めての巣立ち。3羽育っていたが1羽は前赤石ペア (J0389 ♂ J0384 ♀) の攻撃により死亡。J0009 ♀ と近親婚になりかけたが、養父市八鹿町伊佐で未標識の ♀ とペアになり、2018年には2羽のヒナが巣立った。戸島ペアの孫に私の息子と同じ名前が付けられた。嬉しいな。J0206 ♂ 誠君。よろしく。

J0014 ♀ 6月11日巣立ち。伊豆ペアの ♂ が好きなのか伊豆人工巣塔に執着し、独身を貫いている。伊豆が大好きなコウノリのような。

2010 年

J0022 ♀ 6月8日巣立ち。たくさんの方が見守ってくださったなかで巣立った。巣立ち後から旅をし、南さつま市まで行き来していた。2016年から妹の (J0028) と舞鶴市の KDDI の鉄塔に営巣し舞鶴で過ごしている。

J0023 ♀ 6月11日巣立ち。J0022 が巣立ったあと、一緒に巣立つかと思われたが伏せてしまい、3日後に J0022 が待つ湿地にやっと降りることができた。J0022 とは異なり豊岡市内で過ごし、現在は私の通勤エリア内で過ごしている (豊岡市一日市・森津・野上)。

2011 年

J0028 ♀ 6月9日巣立ち。日高町静修小学校2・3年生の皆さんの声援を受けて巣立った。涙を流している子もいて、感動を分かち合えたことが嬉しかった。京丹後市・鳥取市・福岡・



声援を送る子供たち「飛んだ！」

大分・山口・福井県と旅をして舞鶴市のKDDIの鉄塔でJ0022♀と巣材を運びメスメスペアが2016年から続いている。

J0029♀6月11日巣立ち。J0028が待つ淡水湿地に降りた。降りてすぐに採餌行動を始めた。2014年11月網野町で翼を怪我しているのが見付き、福知山動物園で手当てを受け放鳥。翌年再度怪我をして福知山動物園で治療していただいたが2016年4月26日に死亡した。福知山動物園にお礼を言い、ゲージの傍に野の花を手向けた。

2012年

J0047♀6月7日巣立ち。親鳥(J0391)が在巢のときに巣立った。大勢のカメラマンの方が来られていたが、「親鳥が巣にいたときは巣立たない」というジンクス？経験？によるためか、皆さん雑談やトイレに行かれ、私も来館者の方とおしゃべりしていた。おひとりだけが撮影されていて記念の写真をいただいた。巣立ち後は京丹後市・出石町周辺で過ごしていた。出石町周辺で過ごす成鳥の個体とも、もめることなく過ごしていたことから、気立ての良いコウノトリだという印象がある。げんきくんが韓国から戻り、雲南市を見つけて「ここに住むぞ」と決めた？とき、2日間だけ豊岡に飛来した。(2月18～19日)私はその2日間で燃えるような恋をしたと思っている。運命の赤い糸。3月12日にJ0047は雲南市で確認されたが、その時はすでに営巣活動を始めていて3月20日に産卵が確認されている。4羽のヒナの子育て中にサギと間違えて誤射され天国へと旅立ってしまった。悲しい出来事であったが、人の優しさ、弱さをコウノトリを通じて学ばせてもらった。赤瓦の街並み「よけじ」のある豊かな田んぼをJ0047が教えてくれた。



J0047の巣立ち

戸島B(未標識)6月9日巣立ち。6月16日に拡声器に止まろうとしていて誤り、左足を痛めていた。そのため、足環付けは延期となり足の回復を待つ足環を付けられることになっていたが、京丹後市に飛来し、永留人工巣塔でJ0050とペアになった。無精卵のまま真夏まで抱卵を続け痛々しかった。現在J0050は行方不明。戸島BはJ0050を探し、旅をしていると思っていたが、2月21日に永留人工巣塔に戻り、J0131♀と交尾をしていたのが確認されている。(足環がないので？だが)

2013年

J0082♂6月23日巣立ち。伏せていることが多く、休館日に行くと朝から伏せていたので今日も飛ばないだろうと美容院へ行っている間に巣立ってしまった。郷公園のモニターさんによると、巣立って間もなく電線にぶつかって落ちたとのこと。心配したが元気そうで安心した。(75日め)2013年9月13日より行方不明となっている。

※この年以降は現在と同じ、孵化後約43日で足環が付けられている。

2014年

J0096♂8月11日巣立ち。4月14日に3羽のヒナが育っていたがJ0017の攻撃により死亡。戸島ペアは早くも16日から再び交尾を繰り返し、J0017の攻撃を受けながらの3羽のヒナを育てた。早朝に岡山の方が巣立ちを確認してくださった。淡水域で待つJ0391のもとに降りた。2015年10月5日京丹後市峰山町の鉄塔の下で死亡が確認されたとき、近くの工場の方も「毎晩この電柱で埒入りしていたのに」と悲しんでおられた。せめてもと、鉄塔の下に野の花を手向けた。

J0097♂8月9日巣立ち。台風接近の夕刻に飛び立ち、下島田んぼに降りた。J0391が大慌てで飛んできて見守っていた。夕刻に巣立ち、巣に戻れるか心配した。2017年6月に山形県で電線に羽が絡まり中刷りになっているところを救護され、コウノトリの郷公園により治療後、韓国生態研究所開発の発信機を装着し放鳥された。2019年からJ0110♀とペアになり、出石町水上の人工巣塔で繁殖し2羽のヒナ

が巣立った。現在も巣塔周辺で過ごしている。今年に入りテレビ出演も果たした。「ナニコレ珍百景」すごいね。

J0098♂ 8月12日巣立ち。この年の最後の巣立ちとなる。J0096 J0097の待つ淡水湿地に降りる。湿地内でJ0294の後を追いかけて餌乞いをしていた。夏休みお盆前、観光に来られた大勢の声援を受けた思い出多い個体だ。2018年福井県坂井市で野生個体エヒメの娘J0078♀とペアになり電柱に営巣。4羽のヒナが巣立った。そのうち3羽が昨年末には韓国へ渡った。今年も仲良くしている。

2015年

J0104♀ 6月10日J0030に襲われ強制的に巣立ち。お昼過ぎに飛び立ち着地しないで帰巣した。巣立ちを楽しみにカメラを構えていたところ、後方からJ0030がヒナを攻撃し3羽とも転がるように巣から落ちた。近くの倉庫の屋根にとまるがJ0030に追いかけて空中で攻撃される。楽々浦の山の斜面に潜み難を逃れた。その後も2週間近く、J0105と共に昼間は結地区の谷あいの田んぼに潜み、夕方に帰巣してJ0294に餌をねだっていた。その後九州まで飛んでいき、熊本地震のときも九州で過ごしていた。昨年は京丹後市峰山町でJ0091♂とペアになり鉄塔に巣材を運んでいたが取り払われた。今年も峰山町でJ0091と過ごしている。

J0105♀ 6月10日J0030に襲われ強制的に巣立ち。J0104と共にいきなりのJ0030の攻撃にあい飛び立ち、湿地南に降りたが再度J0030に攻撃される。地域の方と佐竹さんが現場に駆け付けJ0030を追い払い難を逃れた。しばらく湿地で呆然として動くことが出来なかった。J0104と同じく九州まで飛んで行った。

※J0030は死んでしまったが、J0104とJ0105が母鳥となり命をつないでほしいと願っている。

2016年

J0125♂ 6月10日巣立ち。城崎小学校3年生の訪問日、見送り後に巣立つ。高くジャンプをしてそのまま風の応援を受け飛び立つ。すぐ小学校に電話して皆の歓声をうけた。2019年に同じ日に巣立ったJ0123♀と鳥取市の電波塔に営巣し4羽のヒナを育てた。海からの強風に叩かれながら巣材を運んでいる姿に感動。その内の1羽が韓国へ渡った。

J0126♂ 6月12日巣立ち。飛びたくても飛べない日が2日続いたが、J0125が10数回巣と湿地を行き来してくれたおかげか、やっと飛び立ち仕切り堤防に降りた。独身を謳歌するように京丹後市、石川・福井・香川・徳島・島根・鳥取県を飛び回っている。J0125の子供たちにも鳥取で出会っている。叔父さんだよ。

2017年

J0151♂ 6月21日巣立ち。強風のなか巣立った。親鳥や他のコウノトリと飛びまわり追いかけられ、日没まで探したが見つけることはできなかった。捜索中に人生初の職務質問を受けビビった。警察の方に事情を説明すると足環の色をメモしてくださり「見つけた時には連絡するね」と言われ感激した。翌日、福田人工巣塔に降りているのが分かり、ホッとしたのもつかの間、子育て中の福田ペアに襲われないか心配した。ところが、すっかり福田ファミリーに溶け込み、巣立ち後は一度も親鳥から給餌されないまま成長した。京丹後市で長い間過ごし、昨年秋から鳴門に飛来。今年に入り三豊市の人工巣塔にJ0501♀と共にとまった。しかしJ0501は長浜市に移動してしまい、現在は香川・徳島周辺でJ0501の帰りを待つかのように過ごしている。

J0152♀ 6月12日巣立ち。孵化後62日目。作業日で物音に驚き飛び立つ。私は掃除をしていて気づかなかった。玄武洞へ向かう道路の側溝に蹲っているのをサイクリングされている方が見つけてくださった。コウノトリの郷公園で手当てを受け、戸島湿地で解放。その翌日に巣に戻ることができた。2019年には峰山町でJ0173と共に電柱に巣材を運んでいるのが確認されている。今年に入り2月には米子市で

確認されている。

2018年

J0195♂6月19日巣立ち。羽繕いが好きなのか、親鳥の羽繕いまでしていた。8月末から長浜市に飛来し「戸島君」と呼んでいただき、毎日のように観察していただいていた。その後、鳴門市、加古川市で元気に過ごしている。

2019年

J0246♂7月6日巣立ち。巣立ち後すぐにJ0103追いかけられ、7時間過ぎて帰巢した。20日後に足の指にトラバサミが挟まり、3週間後に外れる。一か月給餌を続け8月3日に捕獲。コウノリの郷公園で手当てを受け、10月17日に国府平野で放鳥された。放鳥後J0087に追いかけていたが、翌日には同じ場所で目撃されていた。19日に行くと1羽が追いかけて丸山川を越えていくのを見たのが最後、行方不明となっている。追尾され必死で逃げていた姿が忘れられない。なんとも、可哀想だ。

J0247♀7月5日巣立ち。J0246の傍に寄り添うように過ごしていた。8月4日以降、戸島湿地へは戻らず、京丹後市、今年に入ってから宮崎県都城市で過ごしている。戸島生まれの女子はあたたかな九州がお好みようだ。

J0248♂7月5日巣立ち。体も大きく、巣立ち後にJ0247がJ0103に襲われていると急いで戻り勇敢に立ち向う。四国がお気に入りのようで、愛媛、鳴門で過ごしている。どこかでJ0246を見つけて、豊岡へ連れて戻ってほしいと願っている。

今年の戸島ペアは、J0122♂とJ0043♀(共に昨年近親婚ペア)。が巣で交尾行動をし、毎日のように飛来しているので落ち着かない様子です。J0391が湿地内にいない時には緊張状態が続きます。J0294はJ0102やJ0103、J0112とJ0043に攻撃されながらも、命をつなごと一生懸命です。

今年も帰巢して3分以内に交尾。繁殖期になると交尾後に尾羽をプルプル震わせることも例年通りで、飛来個体があると交尾回数も増えること、オスの飛来にはJ0391が立ち向かい、メスの飛来にはJ0294が追い払っています。これらの行動は、戸島ペアが教えてくれました。皆さんの地域で観察の参考にしていただけると嬉しいです。

ハチゴロウの戸島湿地
産卵数・巣立ち羽数

年度	産卵数	巣立ち羽数
2008年	3	3
2009年	2	2
2010年	4	2
2011年	4	2
2012年	3	2
2013年	4	1
2014年	6	3
2015年	4	2
2016年	3	2
2017年	4	2
2018年	4	1
2019年	4	3
合計	45	25



編集後記



宮村さち子パタパタの編集長には、41号まで大変な作業をしていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。放鳥以来、目撃情報の発信をされていた宮村良雄理事にもこの紙面を借りてお礼を言わせてい

ただきたい。ご夫婦があつてこそこのコウノトリ湿地ネットだと思う。

そして、豊岡を心底愛し、コウノトリを愛する佐竹代表からは多くのことを学ばせてもらっている。意見は違うこともあるけれど、一緒に活動出来て幸せな人生だと改めて思う。幸いにして、地域おこし協力隊の永瀬さんと但馬野鳥の会の西垣さんが、戸島湿地のスタッフに加わってもらえた。若い二人からも教えられることが多い。有難く、とても嬉しい。

(森)

我が家の前は、円山川の支流である出石川の上流です。円山川河口近くにある戸島湿地までは車で川沿いを約50分。遠いから大変でしょう、とよく言われますが、不思議なことに、大変だと感じたことが一度もありません。豊岡の朝の景色は格別です。峠の景色、川の景色、コウノトリ、運がよければ六方田んぼの野鳥たち、私にとってこれほど贅沢な出勤コースはありません。いつか自宅前から戸島湿地までカヌーで下って出勤するのがひそかな夢です。またこの春から笑顔を忘れず、新しいスタートを切りたいと思っています。

(西垣)

今年の冬も、雪が少ない。豊岡に移住した最初の冬は、大雪で「こんな大変なことが毎年あるのか」と思った記憶がある。最近は降雪量が少なく楽だけれども、冬らしい不便さが感じられず、ほんの少し寂しい。

パタパタは最終号となるが、今後違った形でも情報発信したいと思う。

(永瀬)

お知らせ

コウノトリの全国一斉調査

日時： 3月15日(日)

コウノトリは行動範囲を広げ、全国へと飛び回っております。全国の皆さんにご参加いただき、コウノトリがどこにいるのか、一斉調査を行います。

是非、調査に加わって下さい。

報告方法

- ①「コウノトリ市民科学」の調査員ページから報告 <https://stork.diasip.net//>
- ②メールで報告 toshima8560@iris.eonet.ne.jp
その際に、天候・行動・環境(田んぼ、河川など)・確認した地点の地名を記入し、写真があれば添付してください。
- ③電話で報告 [0796-20-8560](tel:0796-20-8560)
天候・行動・環境(田んぼ、河川など)・確認した地点の地名を報告してください。
集計は、コウノトリ市民科学内の「安否確認情報」で公開いたします。
(一覧は翌日ホームページで公開)